

執筆者紹介

折木 良一（おりき りょういち）

統合幕僚長。1972年に防衛大学校（16期）卒業後、陸上自衛隊幹部候補生学校に入校。指揮幕僚課程、防衛研究所一般課程を修了し、大阪地方連絡部募集課長、陸幕人事部補任課長、陸幕装備部長、第9師団長（弘前）、陸上幕僚副長、中部方面総監、陸上幕僚長を歴任し、2009年から現職。東日本大震災の際には、統合幕僚長として防衛大臣を補佐するとともに防衛大臣の命令を執行した。

ジュリアン・リドリー＝フレンチ（Julian Lidley-French）

オランダ国防大学教授。オックスフォード大卒、イースト・アングリア大修士（国際政治学）、欧州大学院博士（政治学）。欧州の安全保障、軍事問題について幅広く執筆している。NATO国防大学の顧問であり、また英国防大学、ライデン大学、欧州大学院などにおいて教育・研究に従事。英統合参謀長やNATO事務総長、欧州連合緊急対応部隊司令官のアドバイザーを務めるなど実務への貢献も豊富。近著に *NATO: The Enduring Alliance* (Routledge, 2007)、*Strategic Communications and National Strategy* (Chatham House, 2011) など。現在、*Oxford Handbook on War* (Oxford UP) を編集中。

マーク・フィリップス（Mark Phillips）

英国王立統合軍国防安全保障研究所（RUSI）研究員（軍事・インテリジェンス担当）。サイバー・セキュリティ、インテリジェンス、ホームランド・セキュリティ、災害復興における軍隊の役割などについて、多くの研究業績を収めている。キングス・カレッジ・ロンドンの戦争学部を卒業し、同大学大学院で教鞭をとったこともある。最近では、中東・北アフリカにおける国際テロリズム、国防改革の成果に関して提言を行うとともに、保守党の国家安全保障政策である *A Resilient Nation*（2010年1月）の執筆者の一人でもある。

ティモシー・ジェレル (Timothy Gellel)

豪州陸軍将校。25年間の在籍中、多くの海外勤務を経験しており、在京豪州大使館にも国防武官として勤務(2008～2011年)。2011年3月、「パシフィック・アシスト」作戦—豪州国防軍による東日本大震災に対する災害復興活動及び福島第一原子力発電所事故に関する支援活動においては調整任務に従事。国際関係修士号、専門科学士、情報管理・分析に関する準修士号を有する。豪州国防軍語学学校、陸上自衛隊幹部学校指揮幕僚課程(第45期)及び防衛研究所一般課程(第52期)の卒業生でもある。また、クウェート及びアフガニスタンで実戦経験がある。

チョン・ジングァン (Jung Jinkwan)

韓国国防大学 PKO センター教授。韓国軍事アカデミー卒、セントメアリー大修士(国際関係)。米第三軍団・韓国第三軍団在米連絡官、米中央軍・多国籍軍統合立案グループなどを歴任。国連平和維持活動局(UNDPKO)、ARF、GPOI などの活動に参加。平和活動および PKO を専門とする。

吉崎 知典(よしざき とものり)

防衛省防衛研究所理論研究部長。1985年に慶應義塾大学法学部を卒業、1987年に同大学院修士課程を修了し、防衛研究所に入所。ロンドン大学キングズ校戦争研究学部および米ハドソン研究所の客員研究員を経て、2011年9月より現職。専門は紛争研究、同盟研究、欧州の安全保障。現在、東京外国語大学大学院・平和構築・紛争予防講座(Peace and Conflict Studies)客員講師。近著に『NSC—国家安全保障会議の研究』(共著、彩流社、2009年)、『国家建設と民軍関係』(共著、国際書院、2008年)がある。